

図8：神経症の主体における四つのディスクール

\*N  
(結節点1)

\*1  
\*M  
(図7) → 神経症的な欲望の主体が対象aを  
「(象徴的父により解決可能な) 問題」  
とすると、  
→ 主体はその問題に対して  
「(自身がそれになることはない) 根拠」と  
「(自身の手に入ることのない) 結論」が  
存在すると信じている。

\*2  
このように解釈をするとき、

- ・ a:  
対象a、転じて、予測誤差としての不確実性、  
加えて、そこにファルスが与えられるべきとされるもの
- ・ \$:  
欲望の主体。対象aの解消を試みてシニフィアンを操作する
- ・ S1:  
象徴的父、転じて、  
シニフィアンを連鎖させて構築する「言説」の根拠であり、  
根拠の選択の仕方により規定される  
「問いの枠組み (プロブレマティク)」
- ・ S2:  
父がもたらす法、転じて、言説の結論であり、  
問いの枠組みにおいて根拠に従属する諸命題  
の四つの要素を用いて、  
神経症者の思考や行動を表現する  
右記の「四つのディスクール」を描くことができる。

\*3  
四つのディススクールを構成する  
各位置には、  
右のような役割がある。

↑	動因	→	他者	↓
	真理	//	生産物	

- ・ 主体が当初  
同一化しているものが  
真理である
- ・ 真理には十全でないところがあり、  
それが動因を発生させる
- ・ 動因は他者に働きかけ、他者は生産物を算出する
- ・ 生産物は真理を十全にすべく生じたものだが、  
それは実現しない

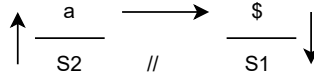
\*4

分離が始まる瞬間  
(=エディプス第二の時)に

対応するのが、  
右の「分析家のディスクール」である。

- ・主体は既存のシニフィアンの体系 (=S2) に  
同一化している
- ・シニフィアンの体系には非一貫性があり、  
予測誤差が対象aを生む
- ・対象aは主体 (=S) を作動させ、  
主体は革新的な視点 (=S1) を得る
- ・新たな視点は既存のシニフィアンの体系と調和せず (=S2//S1) 、  
シニフィアンの体系を組みかえはじめる

このディスクールは不安定であり、  
速やかに下記の「主人のディスクール」へと移行する。

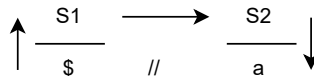


\*5

父性隠喩を確立する段階  
(=「エディプス第三の時」)に

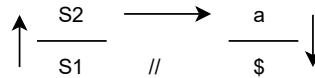
対応するのが、  
右の主人のディスクールである。

- ・主体 (=S) は新たな根拠となるシニフィアン (=S1) を生み出す
- ・新たな根拠に基づいて様々な命題が生み出されていく (=S1→S2)
- ・しかし、そうして構築された新たなシニフィアンの体系にも  
非一貫性 (=a) がある
- ・この非一貫性は、このディスクールで最初に欲望の主体が  
解消しようとしたものとは異なる新たな対象aである
- ・生み出された対象aと主体との間には断絶があるが (=S//a) 、  
主体はこの断絶が克服されうものなのだという  
幻想を信じる (=S◇a)



\*6

確立した父性隠喩について、  
現実的父に同一化し  
象徴的ファルスを持っている  
思いたい者は

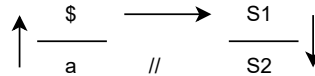


右の「大学人のディスクール」を好むようになる。

- ・主体(= \$)は言説の根拠(= S1)を所持する者に同一化している
- ・言説の根拠はそれ単独ではシニフィアンの体系を形成できず、自身に基づいた様々な命題を持っている(= S2/S1)
- ・様々な命題は、新たな対象aを  
既存の問いの枠組みを保持したまま解決しようとする(= S2 → a)
- ・だが、その試みは不徹底に終わり、  
新たな欲望の主体(= \$)を発生させる
- ・しかし、新たな欲望の主体に従って  
再びシニフィアンの体系を組みかえることは、  
現在の主体の同一化を放棄させることを意味するので、  
この新たな欲望の主体は抑圧される。

\*7

確立した父性隠喩について、  
象徴的ファルスに同一化し  
現実的父に欲望されることを  
欲望する者は



右の「ヒステリー者のディスクール」を好むようになる。

- ・主体は、  
対象aの位置に来るべき象徴的ファルスに同一化するために、  
ファルスに仮装する(= \$/a)
- ・仮装した主体は自身では対象aを解消できない
- ・仮装した主体は対象aを解消すべく、  
現実的父になりえそうな他者に働きかけて(= \$ → S1)  
様々な命題を吐き出させる(= \$ → S1/S2)
- ・しかし、いかなる命題も対象aそのものを  
根絶することはない(= a//S2)
- ・そのため、それらの命題の根拠(= S1)も失墜する